

ヘッジファンドとサウジリアル

ヘッジファンドの市場への新規参入数は年々増加しているが、撤退する数も多い。特にパフォーマンスが悪い年は撤退数が新規参入数をはるかに上回る。機関投資家などの顧客はパフォーマンスが悪いヘッジファンドからはすぐに資金を引き上げるからだ。ヘッジファンドも生き残りをかけて結構大変なのだ。

今年の前半ヘッジファンドのパフォーマンスは押しなべて芳しくなかった。2012年も秋口までヘッジファンドのパフォーマンスは悪く、マクロ系を中心に撤退の話も出ていた。そしてヘッジファンドが起死回生を狙った。今年是中国、12年は日本だ。

陰謀論めいた話になって好きではないが、海外の金融関係のメディアが一斉にアベノミクス（12年）や人民元の切り下げ（今回）を大々的に報じた。日銀の金融政策に全く無関心だったディーラーや、人民元のレートの水準さえ知らなかったストラテジストが突然電話の向こうで専門家のごとく滔々としゃべりだした。

市場はどんな機関やグループも操作できないと強く信じているが、今回の中国に端を発した市場の変動には違和感を感じる。

そして投機の余波はサウジリアルにまで及んだ。サウジリアルは対ドルでペッグされ、3.75を中心に長い間ほとんど変動がない通貨だ。ドル建ての潤沢な原油輸出の収入と資本取引規制がそうした固定的な為替レートを持続させてきた。ところが原油価格の急落で収入減になる一方で、国内のインフラ投資や社会保障それに軍事費など、歳出は構造的な増加傾向で財政は赤字になってきた。

そこで資源国通貨売りのトレンドに乗ってドルペッグのサウジリアルにも挑戦を始めたのだ。湾岸6通貨の中ではクウェートディナールだけは通貨バスケットに連動した管理変動相場制だが、他は対ドルペッグの固定相場だ。もしサウジリアルが切り下げに追い込まれれば他の通貨にも影響が及び、中東通貨危機にもなりかねない。

だがその可能性は小さい。今回のサウジリアルへの挑戦は徒労に終わる可能性が強い。6千億ドル以上の外貨準備があり、資本規制もしている。ヘッジファンドもまだ機は熟していないと判断するだろう。

そして将来、パフォーマンスが芳しくないときのターゲットとしてサウジアラビアをはじめとする湾岸諸国を取っておくのだ。